

人生ハンド仏句

第158号

H. 27. 5. 1
(毎月1日発行)

いとこ会

住職 谷川寛俊

「やつぱり、従兄弟（従姉妹）はどこか似ているもんだね」と、昔からよく耳にしますが、確かに顔のどこか似てる場所があるようです。過日、私の母方の「いとこ会」を初めて開催しました。母は二男六女の次女で、黒部市若栗の上田家の生まれで、真成寺先々代、上田寛龍上人の姪に当たり、上田寛龍上人は四男一女の長男で、名門上田家の大切な長男でしたが、縁あって出家し、真成寺第三十三代目の住職になられました。しかし子宝に恵まれず、自分のすぐ下の弟の子、つまり私の母が三歳の時に養女として真成寺に入り育てられたのです。当時、真成寺には四々五人の弟子がいて、やがて私の父であり師匠の谷川寛徳上人の妻となり、石川県白山市（旧・松任市）の経栄寺というお寺で住職をしていた時、私が誕生しました。そして私

が小学校六年生の終わる頃、上田寛龍上人が亡くなられた為、父が真成寺の住職となり、魚津に移ってきたわけです。

ところで、私の従兄弟（従姉妹）は男八人、女八人いて、男性陣は幸いにも皆、魚津、黒部在住の者ばかりで、わりと集まりやすく、おまけに酒豪の強者ばかりで、一言で話もまとまり、今回初の「いとこ会」の結成と相成ったわけです。

悠々自適に暮らす者、会社の第一線で活躍する者、まもなく定年を迎える者、あるいは会社を経営する者等々、ユニークな顔ぶれが揃いました。開始前、本堂で伯父達、伯（叔）母達のご供養を申し上げ、さぞ喜んで頂けたものと思います。有り難いことに一族以外、みな真成寺の檀家（一人は長教寺さんの檀家）の為、私は普段からよく知っているのですが、中には初めて出会うという従兄弟（従姉妹）もいたりました。そこは同じ血が流れている者同士、宴たけなわで、中締めが入っても、一向に終わる気配がなく、当然のことながら、夜が更けるまで盛

「人生ハンド仏句」と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

り上がり、早くも「いとこ会」の会長さんまで決定する始末。本当に皆楽しい一時を過ごしました。

いつも申し上げるのですが、何と申しても、現在の自分は両親がいて、そしてその両親にも又、両親がいて：十代遡ると、一〇二四人という親、ご先祖様が存在したわけです。その中の一人が欠けていたら、今の自分はいなかったのです。つまり私達はよほどのご縁があったからこそ、この両親のもとに、更には選ばれて生まれてきたわけであります。もっと言うならば、その人にしか出来ない使命を持って生まれてきたと言われるのです。

日蓮聖人様のお言葉に「我が頭（こゝろ）は父母の頭、我が足は父母の足、我が十指は父母の十指、我が口は父母の口なり（忘持経事）」と。

あとで記念写真をゆっくり眺めて見ると、確かにどこか似通った顔立ち等々、似ている部分が多々あります。本当に思い出に残る「いとこ会」でした。早くも次回が待ち望まれます……。

